

閣 副 第 6 3 1 号
4 初 児 生 第 1 1 号
令 和 4 年 6 月 1 0 日

各都道府県教育委員会人権教育担当課長
各政令指定都市教育委員会人権教育担当課長
各 都 道 府 県 私 学 主 管 課 長
附属学校を置く各国立大学法人附属学校主管課長
附属学校を置く各公立大学法人附属学校主管課長
中学校及び高等学校を設置する学校設置会社を
所管する構造改革特別区域法第 12 条第 1 項
の認定を受けた各地方公共団体の主管課長

殿

内閣官房拉致問題対策本部事務局政策企画室長
文部科学省初等中等教育局児童生徒課長
(公 印 省 略)

北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール 2022 の実施、及び電子コミック「母が拉致された時 僕はまだ1歳だった」の無償貸し出し開始について
(依頼)

北朝鮮による拉致問題は、我が国の主権及び国民の生命と安全に関わる重大な問題であり、日本政府は、全ての拉致被害者の帰国を実現すべく、政府の総力を挙げて最大限の努力を続けております。

政府としては、拉致問題に関する啓発活動にも力を入れて取り組んでおり、特に、これまで拉致問題について触れる機会の少なかった若い世代への啓発が重要な課題となっています。かかる観点から、全国の中学生及び高校生（義務教育学校、中等教育学校及び特別支援学校の生徒を含む）を対象に、北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクールを別添1のとおり実施いたします。

本年度は新たに、拉致被害者田口八重子さんの長男である飯塚耕一郎氏に焦点を当てた電子コミック「母が拉致された時 僕はまだ1歳だった」（以下、「漫画「耕一郎」」という。）も課題とします。

これに伴い、令和4年6月10日（金）より、インターネット上に電子図書館を開設し、漫画「耕一郎」を、学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校（義務教育学校、中等教育学校を含む））を対象に無償で貸し出しすることとしました。

貸し出しを希望する場合は、別添2を参照の上、申込みを行ってください。

また、漫画「耕一郎」の無償貸し出しにあたり、別添3のとおり、飯塚耕一郎氏

から児童生徒の皆さんへメッセージをいただきましたので、合わせて御活用ください。

については、貴管下の学校に対し、本通知をもって本コンクールを周知していただきますよう、御協力のほどよろしくお願いいたします（応募先は別添1参照）。都道府県教育委員会におかれては、本件につき、域内の区市町村教育委員会に周知くださいますよう、併せてお願いいたします。

（添付資料）

別添1 北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール2022募集要項

別添2 拉致問題対策本部電子図書館のチラシ

別添3 本作品を読んでいたいただいた皆さんへ（飯塚耕一郎氏から児童生徒の皆さんへのメッセージ）

【お問合せ先】

○内閣官房 拉致問題対策本部事務局政策企画室 中上

〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1

TEL：03-3581-8898（直通） FAX：03-3581-6011

E-mail: g.rachi@cas.go.jp

拉致問題ホームページURL <http://www.rachi.go.jp/>

○学校教育における人権教育に関すること

文部科学省初等中等教育局児童生徒課指導係

〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

TEL：03-5253-4111（内線 3291） FAX：03-6734-3735

E-mail jidous@mext.go.jp



1日も早い拉致被害者全員の救出にむけて!

北朝鮮人権侵害問題啓発週間 作文コンクール 2022

主催 | 政府拉致問題対策本部 後援 | 法務省、外務省、文部科学省

政府拉致問題対策本部では全国の中高生を対象に、拉致問題関連の映像作品や舞台劇の視聴、拉致問題関連書籍の読書等を通じて拉致問題を知ってもらい、更に自分自身で拉致問題について学習し、理解を深めてもらうため、作文コンクールを実施します。拉致被害者やその御家族の心情を理解するとともに、拉致問題解決のために自分に何ができるのか、何をすべきかについて深く考える機会としてください。また、拉致問題に関して英語での発信力を備えた人材の育成を促すことを目的として、英語エッセイの募集も行います。

受賞者には表彰式と新潟市の横田めぐみさんの拉致現場の視察にご招待いたします。

表彰式の模様(2021年12月11日、東京都千代田区イノホール)

募集要項

【受賞者公表】2022年12月中旬頃

(受賞者には、事前に主催者から在籍校を通じて連絡します。)

【締め切り】

2022年9月22日(木)

消印
有効

募集部門

中学生部門、高校生部門及び英語エッセイ部門

応募資格

【中学生部門】日本国内の中学校、義務教育学校(後期課程)、中等教育学校(前期課程)及び特別支援学校(中学部)に在学する生徒

【高校生部門】日本国内の高等学校、中等教育学校(後期課程)及び特別支援学校(高等部)に在学する生徒

【英語エッセイ部門】日本国内の中学校、高等学校、義務教育学校(後期課程)、中等教育学校(前後期課程)及び特別支援学校(中学・高等部)に在学する生徒

審査

北朝鮮による拉致被害者家族連絡会、全国紙新聞社、内閣官房拉致問題対策本部事務局、文部科学省、法務省、外務省、英語表現専門家、米国の北朝鮮専門家から選出された委員で構成する最終審査委員会で各賞を選定します。

賞

【中学生部門、高校生部門】

- 最優秀賞 各部門1点ずつ(賞状及び盾を授与)
- 優秀賞 各部門2点ずつ(賞状及び盾を授与)
- 特別賞 各部門3点ずつ(賞状及び盾を授与)

【英語エッセイ部門】

- 最優秀賞 1点(賞状及び盾を授与)
- 優秀賞 2点(賞状及び盾を授与)※中学生・高校生各一名

【団体賞】

- 積極的に作文に応募した学校(賞状を授与)

表彰式

最優秀賞及び優秀賞に選定された受賞者並びにその引率者を、北朝鮮人権侵害問題啓発週間・政府主催イベント(2022年12月中旬頃)における表彰式と、新潟市の横田めぐみさんの拉致現場の視察(11月中下旬)に招待いたします。また、最優秀賞受賞者には、表彰式において、受賞作品と同視察の感想を発表していただく予定です(いずれも旅費は内閣官房が負担します。)。なお、新型コロナウイルス感染症に関する今後の状況によっては、表彰式や拉致現場視察の実施が困難となる可能性がありますことを予め承知おきください。

アニメ

「めぐみ」は拉致問題対策本部ホームページで視聴できます。

▶ <https://www.rachi.go.jp/>



ドキュメンタリーコミック

「母が拉致された時 僕はまだ1歳だった」無料貸与はこちら

▶ <https://www.rachi.go.jp/jp/shisei/library/library.html>



作文を書くに
当たっての留意点

- 拉致被害者や拉致被害者の御家族の心情を理解する
- 拉致問題について、自分自身で調べ理解する
- 学校生活や社会のあり方などに考えを及ぼす
- 自分に何ができるか、何をすべきかに考えを及ぼす
- 拉致問題に関して国際的な発信力を備えた表現とする(英語エッセイ部門)

応募・問い合わせ先

〒101-8799 神田郵便局留 北朝鮮人権侵害問題啓発週間 作文コンクール事務局(委託先:ステッチ株式会社内)

☎03-6260-7275(受付時間/土・日・祝を除く10:00~18:00)

学校応募票

応募部門	中学生部門・高校生部門・英語エッセイ部門		(いずれかに○をつけてください) 複数部門に応募する場合は、 本応募票をコピーして、部門毎に記入、提出してください。		
都道府県名		市町村名			
ふりがな	-----				
学校名	立		※正式名称でご記入ください。		
住所	〒				
ふりがな	-----		電話番号		
担当者名	-----		FAX番号		
メールアドレス					
作品数	送付作品数	作品	総作品数	作品	
	※応募数の上限はありません。		※未送付作品がある場合、 送付作品数を合わせた総作品数を記載してください。		
同封の送付作品について、下記リストにご記入ください。					
※15作品を超える場合は下記内容リストを適宜追加してください。					
No.	タイトル	学年	性別	氏名(ふりがな)	事務局使用欄 ※記入しないでください
1			男・女		
2			男・女		
3			男・女		
4			男・女		
5			男・女		
6			男・女		
7			男・女		
8			男・女		
9			男・女		
10			男・女		
11			男・女		
12			男・女		
13			男・女		
14			男・女		
15			男・女		

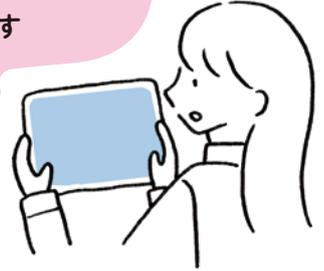
<個人情報の取り扱いについて>

応募者の個人情報は、作品の審査、受賞者への連絡のためにのみ使用し、主催者及び本コンクール業務委託先が責任をもって管理します。受賞者の名前、所属する学校名及び学年は、本人及び学校から承諾を得た上で、新聞、拉致問題対策本部ホームページ、作品集などで公表させていただきます。

拉致問題対策本部の 電子図書館を開設しました!



パソコン、タブレット、
スマートフォンなどで
閲覧できます



小学校、中学校、高等学校、
特別支援学校(※)に
無償貸し出しをしています。

※義務教育学校、中等教育学校含む

貸出作品

漫画「母が拉致された時僕はまだ一歳だった」

拉致被害者の田口八重子さんの帰りを待ち続けている
長男の飯塚耕一郎氏に焦点をあてた漫画です。



閲覧期間

2週間 例) 8月1日(月)に借りた場合、8月15日(月)まで閲覧できます。

利用できる方

学校を通して申し込みをした児童生徒

利用方法

- ①学校の先生からメールを g.rachi@cas.go.jp 宛てに送る。
- ②貸し出し人数分のIDとパスワードを受け取る。
メール送付から2~3日後にお送りします。
- ③貸し出す児童生徒にIDとパスワードを伝える。
- ④児童生徒が各自ログインを行い、閲覧する。

<記載項目>

- ・学校名(●●県●●市立●●小学校)
- ・担当者名
- ・貸し出し希望冊数
- ・貸し出し開始希望日

『らちもんだいたいさくほんぶ電子図書館』 <https://web.d-library.jp/rachitai/> →



本作品を読んでいただいた皆さんへ

本作品を読んでいただき、ありがとうございます。

皆さんどのような感想をお持ちになられたでしょうか。

この本が2006年9月に発刊されてから、約15年と長い年月が経過しました。長い時間が過ぎたにもかかわらず、きわめて残念ながら、いまだ母^{やえこ}八重子さんとの再会はできていません。

一方、さまざまな方々のご協力により2009年3月に韓国^{ぶさん}釜山にて父^{いづかしげお}飯塚繁雄と共に^{キムヒョンヒ}金賢姫氏との面会ができませんでした。

面会中、北朝鮮で八重子さんと彼女との生活や八重子さんの子供を思い出す様子などいろいろなことを丁寧にお話しいただきました。

私自身、記憶がない母親の気持ちに多少なりとも近づけたかとも感じました。

そして、金賢姫氏も交え八重子さん、父飯塚繁雄との4人での再会を約束し、改めて一刻も早い^{らち}拉致被害者救出を心に^{ちか}誓いました。

しかしながら、2022年となった今、2002年の5名の拉致被害者の

帰国以降、誰一人として日本に帰国できておらず実質的に何も変わっていません。

なぜ、どうしてこんな長い間解決に向けて物事が進まないのか、疑問、^{あせ}焦り、怒り、悲しみなどさまざまな思いが日々心の中を^{めぐ}巡っています。

私は 2004 年 2 月に北朝鮮による拉致被害者家族連絡会（通称：家族会）に入り、八重子さんを含めた拉致被害者の救出のため、これまでさまざまな活動を行ってきました。

私だけでなく、多くの家族会のメンバーが活動してきました。国内での講演、^{しよめい}署名活動、歴代総理も含めた日本政府への^{とうしん/たんがん}答申/嘆願、米
国政府/諸外国や国連の人権委員会への^{ようせい}協力要請などの国際活動などです。

まさに文字通り“^{とうほんせいそう}東奔西走”で、家族を救うために日本、世界各地を駆け巡り、救出を訴え続けてきました。

しかし、このような家族会メンバーの活動や思いに応えることなく、北朝鮮は「拉致問題は解決済み」との姿勢を公式な立場として崩^{くず}

してはいません。

北朝鮮は 2002 年、2004 年に帰国していない被害者に関する調査結果を出してきましたが、いずれも合理性も信用性もない証拠であり、誰もが死亡と容認できないものでした。私の母の報告書には、母を示す名前が何一つ載っていませんでした。

さらに 2014 年 5 月にストックホルム合意を日朝間で締結し、北朝鮮は特別調査委員会による拉致被害者の再調査を約束しました。

その後、何の成果もなく 2016 年 2 月に北朝鮮は一方的に調査中止と委員会の解体を行いました。

結果的に北朝鮮は 20 年近く、われわれ家族会メンバーとその家族である被害者自身をもてあそび続けました。

さらに、この 20 年の間に家族を救うために活動を続けてきた家族会の中心的なメンバーであった 元代表の横田^{しげる} 滋さん、元代表であり田口八重子さんのお兄さんであり私の養父である飯塚繁雄、有本恵子さんのお母さんの有本^{かよこ} 嘉代子さんなど、再会がかなわないまま家族が一人また一人と亡くなっています。

拉致問題は北朝鮮を取り巻く他の問題である核、ミサイル問題と

同様に時間をかけてよい問題ではありません。これは人の命の時間には限りがあるからです。

八重子さんが拉致されて44年と長い時間が経過しました。

残された時間は少なく一刻の猶^{ゆうよ}予もありません。

そのため、引き続き日本政府は拉致問題が日本国の最重要、最優先課題の位置付けを維持し、“全ての拉致被害者の即時^{そくじいっかつ}一括帰国”をあきらめることなく、遅れることなく実現させなければなりません。

皆さんも、この問題を友達、家族、親戚など身近な人と話し合っていていただき、この問題への理解と支援を引き続きいただければと思います。

皆さんの声はこの問題の解決の力となります。

最後までお読みいただきありがとうございました。

令和4年6月某日

北朝鮮による拉致被害者家族連絡会 事務局長 飯塚耕一郎